

演 題 名 「うに井が食べたい！」 ～笑顔がいっぱいへの活動日誌～

施 設 名 介護老人保健施設しおん

発 表 者 ○成澤美由紀（看護師） 大沼さおり（介護福祉士） 中野佑輝子（栄養士）  
佐藤祐一（理学療法士） 奥田健之（介護福祉士） 相澤珠巳（看護師）

概 要

【はじめに】

当施設はご本人・ご家族の希望に沿った看護・介護・リハビリテーションを提供し、ご自宅にお戻りいただくまでのサポートを行なっている。今回はご入所者が意欲を持って在宅復帰に向けて取り組むようになるとともに、目標を見つけ、それを多職種で協力して実現させた取組みを紹介する。

【症例紹介】

M様 83才 女性 介護度3

（既往歴）小脳出血、右不全麻痺、高血圧、脂肪肝  
若い頃から糖尿病と高血圧の既往があり、平成10年と平成22年に小脳出血発症して右不全麻痺となる。ご自宅にて療養生活を送られていたが、ご家族の介護疲れと再発の不安から当施設に入所。

【介護計画】

<目標>

（短期目標）

- ・身体状態の回復（杖歩行での移動が可能になる）
- ・自分から他の利用者と進んでコミュニケーションを取れるようになる。

（長期目標）

- ・自分のやりたいことを見つけ、取り組むことが出来る。

<介護>

- ・レクリエーションの実施、および参加の働きかけ。
- ・他の入所者とのコミュニケーションの仲介。

<看護>

- ・排便コントロール
- ・血圧・血糖コントロール

<栄養士>

- ・食生活の改善（カロリーコントロール）

<リハビリテーション>

- ・立位時におけるふらつき改善
- ・歩行トレーニング

<ご家族の意向>

- ・自宅での寂しい生活ですっかり元気がなくなってしまったので、かつての社交的な母に戻って欲しい。

【経過】

入所当初はご自宅での療養生活が長かったことが影響し、人と話すことが少なく、コミュニケーション能力が低い状態であった。また杖歩行時、ふらつきによる転倒リスクが高く、ご自身の身体レベル低下と精神的な不安の為、活気が見られず居室での生活が多かった。そこで居室から共有スペースにお連れし、他の入所者と話せる場を作ったり、グループで出来るゲームや創作活動へお誘いしたりしたところ、初めは話の輪に入ることに抵抗感があったが、徐々に積極的に参加するようになり、様々な創作物を手伝うようになった。

自分のやりたいことが見つかるとともに、「自分で出来ることは自分で」というお考えも持ちはじめ、かつてから希望されていた『杖歩行出来るようになり、外出してうに井を食べに行く』という目標に向けて挑戦することとなった。

【結果】

- ・車椅子から杖歩行へ身体機能向上し、外出レクに参加出来るようになった。
- ・食生活改善により体重7kgが減少し基礎体重となった。
- ・身体状況が改善したことで、精神的な不安もなくなり、意欲的な生活を取り戻した。
- ・ムードメーカーとして周りを盛り上げ、楽しませてくれるようになった。

【考察】

ご自宅での寂しい療養生活から入所し、人との関わりが上手く出来ず、活気が見られなかった方が、スタッフからの働きかけで意欲的な生活を取り戻すことが出来た。これを実現出来たのは、以前の社交的なM様に戻って欲しいというご家族の想いと、それを理解した介護・看護・リハ・栄養の多職種のスタッフが共通に持った想いである。

入所者に対してただ介護・看護ケアを行なうのではなく、寄り添い、傾聴し、希望に向けて進んでいるのを実感出来るようなケアが重要であると考えます。